**鍵谷隆一先生　取材メモ**

日時：令和元年７月30日

場所：岩見沢市「俵」

出席：山本広報部長、白井理事、久恒専務、木村広報部員

目的：道歯会通信10月１日号（９月10日〆切）の「人・ひと・ヒト」の取材

　先生は八雲町でお生まれになり、生後１歳まもなく岩見沢に来られ大学進学まで岩見沢で過ごされた。東光中学時代はブラスバンド部に所属、トランペット（の小さいの）を担当され、高校受験を忘れるほど部活動に没頭した。その反動で高校時代は、部活動は何もしなかった。

　大学に進学されてからは剣道部に所属するが怪我をされ１年で退部、その後はラリーのナビゲーターとして自動車レースに参加されたとの事。また、当時のスキーブームもあり本州の有名なスキーリゾート地に頻回に足を運んでいた。当時は交通事情も悪く移動に長時間を要した、また、リフトの待ち時間も１時間以上待つ事もあったが苦にはならなかったとの事。

　大学時代のエピソードとして、入学時、当時は大学紛争の最盛期、入学は５月、病院の窓には鉄格子がはりめぐらせれていた、これとは関係がないが指導教員の鉄拳は常識的であった。

　奥様との出会いは、学生時代はクラスも違い話す機会はなかったが、卒業後バイト先での再会がきっかけとなった。院生時代は奨学金が支給されたが、これは後輩の面倒を見るためほとんど消えたとの事。

　中国語については、奥様の水墨画の中国人の先生と懇意になってからで、中国語に興味を持たれNHKの中国語講座などで独学で学ばれたとの事、現在でも同講座は聴かれている。ご令嬢はハルピンで日本語の教師をされている。ブラインドタッチについても、あるマニュアル本と出会い独学で学ばれた。その本はお孫さんに譲るとの事。

　７０歳を迎えるに当たり歯科界に思う事（専務との対談から）

　歯科医師会＝地域医療の要、特に高齢化社会を迎えるに当たり訪問歯科の重要性は高まるが、現状では実施している先生（特に若い世代）が少ない。歯科医師会活動の意義を含め、若い世代に周知していきたい。その一つの手段として、多くの情報がある中、何が歯科医師に重要かを見極め、それを配信する、「歯科医師会」のありがたさを知らしめることもありか。

　最後に4期９年の会長時代の感想を伺ったところ、「若い人を育てられた」、若い人が協力してくれたこと、若い人に存分にやってもらい責任は自分が取る。そんな思いでいたことが一番の思い出とのことであった。

　これとは別に「岩見沢衛生士会」の頑張りようを会員に伝えて欲しい。との要望があった。　以上　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2019.7.31　広報部　木村